



五社堂

五社堂には男鹿半島のなまはげ伝説があります。

武帝が連れてきた鬼たちは大変よく働きました。あるとき、鬼たちが武帝に一日でもいいから休みがほしいと頼みます。そこで、武帝は5月15日を休みの日としました。喜んだ鬼たちは、村に下りて畑を荒らし、家畜や娘たちをさらってしまいました。怒った村人たちは、鬼を退治することを決心します。武器を持って戦いに挑みますが、力の強い鬼たちに勝てるはずがありません。さんざんな目にあって負けてしまいます。



五社堂



鳥居から見る港

日が沈むのを待って、鬼たちはさっそく石段造りに取りかかりました。山から石を運んでは積み上げていきました。すると、夜が明ける前に完成しそうなほど早く石が積み上がっていきます。これを見て慌てた村人たちは、物まねのうまい者（昔話ではあまのじゃく）を連れてきて、鬼たちがあと一段で千段というところで「コケッコ〜」と鳴き真似をさせました。



999の石段 終点



男鹿半島に続く国道脇の なまはげの館

赤紙神社の前から999段の石段を上ったところにあるのが五社堂です。

五社堂は赤神神社の本殿です。左から、「十禅師堂」、「八王子堂」、「赤神権現堂」「客人（まろうど）権現堂」、「三の宮堂」と呼ばれています。

中央に祀られているのが祭神の赤神です。赤神神社の名前の由来ともなっています。

力ではかなわないと考えた村人たちは鬼に知恵で勝負をします。「毎年一人ずつ娘をさしあげるので、一晩で五社堂まで千の石段を築いてほしい。もし一番鳥が鳴く前に完成しなければ二度と村には来ないでほしい」と頼んだのです。村人たちは一晩で千の石段は鬼といえどもできるはずがないから勝てると考えていました。

これを聞いた鬼たちは、大変驚きました。やがて怒りに変わり、髪を振り乱しました。雷のような声を出したかと思うと、近くの千年杉を引き抜いて大地に突きさし、山に帰っていきました。それ以来二度と姿を見せることはなかったそうです。

村人たちは五社堂に鬼たちを祀り、怒り狂った鬼たちの様子は、なまはげとして伝えています。